

土木会通信 第17号 令和4年11月7日

土木工学科を卒業された北川博巳先生が総合社会学部総合社会学科に着任されましたので、研究内容とこれからの抱負をご紹介します。

近畿大学総合社会学部総合社会学科 環境・まちづくり専攻

准教授 北川 博巳

近畿大学土木会の皆様におかれましてはご清祥のこととお慶び申し上げます。

令和4年4月より、近畿大学総合社会学部総合社会学科環境・まちづくり系専攻に赴任いたしました、北川博巳（きたがわひろし）と申します。

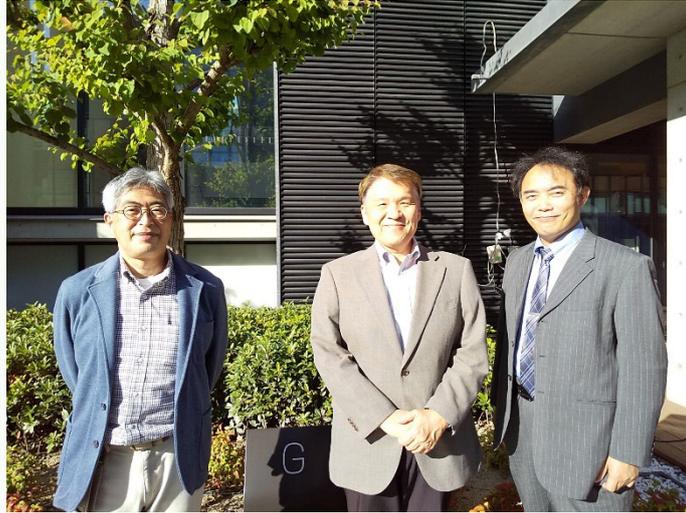
なぜ違う学部の教員の挨拶があるかと言いますと、過去の土木会通信では「就任しました」「退職しました」「受賞しました」などの挨拶がほとんどかと思いますが、私からは「帰ってきました」というご挨拶をさせていただきたいと思います。

私は1991年の理工学部土木工学科の卒業生です。今もご健在ですが、三星昭宏先生のゼミに所属しておりまして、卒業後は神戸大学大学院に入学し（当時は冨田先生の授業も受講しておりました）、その後1993年～1999年まで近畿大学助手として勤務しました。しばらく社会環境工学科で非常勤もしておりましたが、この度23年ぶりに近畿大学の常勤の教員として帰って参りました。

その間、高齢の人や障害のある方たちの移動やバリアフリーの研究活動をしておりましたが、1999年からは高齢者研究の研究機関である「東京都老人総合研究所」、2005年からは福祉のまちづくりに関する稀有な研究機関である「兵庫県立福祉のまちづくり研究所」に在籍しておりました（2020～2022年までは兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンターに所属）。これらの研究機関ではバリアフリーや高齢ドライバー関係の研究に着手し、バリアフリー研究ではユニバーサルカレッジロンドンと研究交流をしてきました。何より2000年に「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」（交通バリアフリー法）や2013年に「交通政策基本法」の制定などをきっかけに地域での実践に取り組んできました。バリアフリーや公共交通の維持・活性化は地方自治体が推進してゆくことになっており、基本計画や地域でのバスの運行など様々な取り組みをしております。最近では2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)のユニバーサルデザインや接遇・介助関係の取り組みに関する委員会に三星先生・柳原先生とともに携わっています。

と言う訳で久しぶりに近畿大学に戻ってきたのですが、今の所属の総合社会学部は2010年に新たに開設した学部で現在は久隆浩先生や大野司郎先生が社会環境工学科から移籍されています。この度、その仲間に加えていただいたことになるのですが、この学部は「現在抱えている様々な社会課題は個別の対応では間に合わないものであり、社会を総合的にデザインするための学部を設置する」(2022年3月に発行された「総合社会学部紀要 10周年記念号」で久先生による当時の資料より)という考えに基づいています。ですので、分離融合型できわめて学際性に富んだ学部でもあり、学際性に富んだ福祉のまちづくりや老年学を志向していた私にとりましても稀有な学部であることを再認識しているところです。

一旦近畿大学を出発してから23年の間に、当時の先生方のご退職されていますし、残念ながらお亡くなりになられた先生もいらっしゃいますが、高齢化・情報化など社会は大きく変化する中で、近畿大学はその間に大きく発展したことを改めて感じております。そして、次の発展に向けて少しでもお役に立てるよう努めてゆきたい所存ですので、土木工学科・社会環境工学科卒業生も皆様におきまして今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



左から 久先生、北川、大野先生

社会環境工学科 2 年生が卒業生にインタビュー

社会環境工学科 2 年生が土木分野で活躍している OG にインタビューを実施しました。在学生にはこれからのキャリア形成の参考になればと思います。

総合演習 I (2 年生前期) という授業で、在学生が卒業生にインタビューを実施しました。今回は、その内容を学生に書いていただきましたので、ご報告させていただきます。

総合演習 I という授業は、グループワークにより、学生が自ら社会基盤に関すること等を調べ、その結果を発表する授業です。今回、その一つの班が、女性技術者の現状に関する調査を行うにあたり、土木会から卒業生 (OG) 3 名を紹介させていただきました。

このテーマに至った背景としては、国土交通省 (H27) の調べによると、様々な分野の技術者のうち、女性の占める割合は 4.5% と非常に低いこと、建設業で出産した女性労働者に対し、育児休業を取った人の割合は、約 50% と他の業界に比べ低いことから、女性は建設技術者として働きにくいのでは、またキャリア継続が難しいのではと思ったことがきっかけです。

そこで、今回は、近畿大学土木会から紹介していただいた女性技術者 3 名へのヒアリング調査を実施しました。また、近畿大学社会環境工学科出身の現在土木分野で活躍している男女 40 人に土木で働く女性の現状についてアンケート調査も実施しました。

今回は、そのヒアリング内容を紹介させていただきます。

Q. 土木業界で働く女性の強みは何ですか？

- A. 大切にされる、目をかけてもらえる。周りが気にかけてくれて産休・育休など休みも取りやすい。
- A. 優しくしてくれる。今も女性が少ないことから周りの人が大事にしてくれるので働きやすい。女性にお勧めの職！
- A. 覚えてもらえる、企業によるとは思うが特に男女の差を感じない。



Q. 土木業界で働く女性の弱みは何ですか？

- A. 年配の業者の人に「女性だから」という理由で何も知らないと決めつけられた経験がある。わからないが、ゼネコンなどの現場仕事だと体力の問題もあるかもしれない。
- A. どうしても出産や育児をする上で休みを取る必要がある場合には制度としてあるが、自分の気持ちの面で申し訳なさを感じてしまう。
- A. 特にないが、企業によっては力仕事や残業が多い(現場仕事など)。



Q. 女性が少ないことに対してどのような対策がとられていますか？

- A. 制度は充実していて休みや土日の休日がしっかりある。
- A. 会社として大々的な対策はないが、制度が良く、部長がとることを進めてくれているので遠慮なく休みをとることができる。休みの日取りなどをきっかけにしてフランクに話すこともでき、あまり堅苦しくない雰囲気。
- A. 会社だけではなく自主的に女性同士のコミュニティがあり、会社としては男女ともに育児制度、復帰後の配慮、女性のキャリア支援をしている。女性のキャリア支援では実際にキャリアのある先輩が後輩へ講演をする機会を設けている。講演を開くことで自分のロールモデルとする人を見つけることができる。



これらのヒアリング調査とアンケート調査を通じてわかったことは、

・女性が働きにくいのでは？

⇒家庭への配慮がある制度があり働きやすい。

・女性のキャリア継続が難しいのでは？

⇒公務員では休みが取りやすい。また、業務にゆとりのある部署に移るなどの工夫がある。

⇒民間企業では、企業や業種にもよるが

ロールモデルとなるような人がいないと、続けるという選択肢が無くなってしまいう傾向にある。
です。

これらのことから、建設業界でも、女性が働きやすい環境づくりや、それに対する工夫があることがわかりました。しかし、女性の割合が少ないのが現状です。これらのことを考慮すると、土木系の学科で学ぶ女子学生を増やす必要があるのではと考えました。そのためには、特にオープンキャンパスなどで、建設業界は、女子でも働ける分野であるということを積極的にアピールしていく必要があると考えました。

インタビューにご協力いただいた方

山田 香月 さん：東大阪市上下水道局 水道施設部 水道整備室 計画推進課 主任

眞境名 裕子さん：東大阪市上下水道局 水道施設部 水道管理室 給水課 主査

池本 佳代 さん：阪神高速株式会社 課長代理

土木会活動案内

役員会

令和4年度役員会は新型コロナの感染予防に努めつつ、10月15日(土)に対面にて実施しました。ご出席いただきました役員、また委任状をご提出いただきました役員に感謝申し上げます。今後ともご協力を賜りますようお願いいたします。

キャリア支援講演会開催案内

令和4年11月12日(土) 午前9時～午後3時にZoomによるオンラインキャリア支援講演会を実施します。13の団体・企業から参加を予定しています。また米田昌弘先生(近畿大学キャリアセンターキャリアアドバイザー)からの公務員志望者へのご講演を予定しています。

多数の学生参加をお待ちしています。



交流会開催中止

例年、キャリア支援講演会後に開催しておりました『交流会』は、新型コロナウイルスへの感染予防のため、中止とさせていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。



【編集後記】2年ぶりに役員会を対面にて実施することができましたが、新型コロナウイルスへの感染予防のため、引き続き、交流会の開催は中止しました。次年度には、多くの卒業生にお集まりいただき、交流を深めていただける機会を設けられるようお願い申し上げます。

会員各位におかれましては、名簿登録情報に変更がありましたら、メールにてご連絡くださいますようお願い申し上げます。

また、卒業生からの近況報告など「卒業生だより」に掲載する原稿を募集しています。

近畿大学土木会事務局

〒581-0811 八尾市新家町8-23-1 東山教授室内

TEL06-4307-3553

E-mail: dobokai@civileng.kindai.ac.jp